

毎日歌壇

加藤 治郎選

音階に従い入力していくとオペレーターと会話ができる
大津市 佐々木敦史

「ゴミはゴミ箱へ」が「ゴミは持ち帰りましょう」
にかわりゴミ箱消える 川崎市 船山 登
「評」街からゴミ箱が消えていったのは事
実だろう。廃棄の問題を考えさせられる。
石焼きいも いーしやーきいも ロックでポ
ップで石焼き芋で 静岡市 海瀬安紀子
草はらに座る椅子をなくして今日は洗濯物を
ずっとみていた 平塚市 芝澤 樹
天使になり損ねた僕がしかたなく徒歩圏内で
探す物件 相模原市 内山 佑樹
ふるさとに一つだけあるボウリング場に大き
な隕石が降る 東京 東京 嶋村 純

長いこと忘れていたがあの橋は片足跳びで渡
るルールだ 大津市 世田 夏雪
抜け出そうともせずじっと佇んでる赤信
号の中の人の絵 三島市 田中りょう
真っ白な壁に話をする人がほほえむ 頭うち
つけながら 雲南市 熱田 一俊
帰れなくなるまでだった夢のなかな何度ものり
もの乗の継いで 春日井市 月夜の雨

水原 紫苑選

今生のもっとも暗いところへと檸檬^{レモン}よ落ちて
落ちてゆくべし 雲南市 熱田 一俊
「評」「今生」の暗さと「檸檬」の力だけ
で、こんなやみくもな命令の一首が成り立
つ面白さ。短歌の魔かもしれない。

夢の樹の根元で蝶々^{チョウチョ}結びされ苦しむ蛇を救
う手引書 枚方市 久保 哲也
「評」たしかにこんな蛇がいそうである。
蛇は苦しむ。おそろしく私たちの恐怖ゆえに。
陽のあたる場所は苦手で亡霊の手を芋虫のよ
うに握った 宮古島市 塩見 伴
幾たびか全球凍結したという星の吐息を憎む
われらか 東京 富見井高志
おやすみを唱えたひとを包み込む透明なのに
破れない繭 東京 遠野 鈴
縄跳びの犠牲になってハゲた土 風はやさし
く夜をかぶせる さいたま市 直

コーヒの苦さにはある優しさが君の苦さに
あればいいのに 神戸市 中林 照明
そう、いつか鼓膜が海を望むなら潮騒をオル
ゴールのなかへ 福岡市 高橋 寧
自分が影を探しさがしてかろうじて押さえ込む
よう降りたつカラス 掛川市 村松 建彦
こがらしの道に見つけた密かなる神の微笑み
貝釘^{カキボネ}のひかり 春日井市 長谷川佳子

伊藤 一彦選

電飾がもう巻かれたる櫛木^{シノブ}が照らすこの世
の翳^{カゲ}の深さよ 東京 福島 隆史
「評」都会は時に華やかに樹木が電飾され
ている。作者が目を向けるのは「翳の深さ」。
今年はその世界だった。

雪国に生まれしことよろこびのひとつに君
の手のあたたかさ 札幌市 住吉和歌子
「評」雪国の作者のみならず、今は世界中
の人が「手のあたたかさ」を求めている。
「失われた三十年」と括られる二十四時間働
いたのに 東京 富見井高志
月白く空の高さに張りついて夜勤の人とすれ
違ふ朝 名古屋市中谷 有希
黄金色待ちわびていた大銀杏^{ダイガク}色づく前に枝全
て切らる 川崎市 佐久間喜賢

食を作る 群馬 金子 歩美
スイミーでおねほ独りでいることもさみしくは
ないわたしがスイミー 池田市 黒木 淳子
やさぐれて人寄せつけぬ猫の眼が次第に親し
く見えて寒の夜 神崎市 貞包 雅文
雪平になみなみの湯気もうもつと踊りくねっ
て冬の来たりぬ 春日井市 月夜の雨
雪のない世界で生きてきたひとのほろんほろ
んとしたあかるさよ 那覇市 奥村 真帆

米川千嘉子選

一族の気負ひはなくて娘たち姓変へること淡
々と言ふ 東京 池崎富実夫
「評」「一族」や家名の意識がなくなった
ゆえの身軽さ。とはいえ、送りだす父の心
情は「淡々と」とはいかないかも。

現実という固結びよ真夜中の蛇口に水のリボ
ンをほぐく 新宮市 小野小乃々
「評」固く結ばれて解決困難な現実。つら
い気持ちをせめて夜の水に流すのだ。
新聞の配達をする老人ら後継ぎおらず今日も
走りて 日南市 宮田 隆雄
リレーバトンぐらいの太き法人格もってずっ
しりの会社印 枚方市 久保 哲也
訳ありの林檎徳用袋に入る深き古傷互いに隠
し 鹿児島市 岡村梨枝子
友等^{トモ}来て庭の柿もぐみんなもぐ 薄着になっ
た柿の木はくしょん 郡山市 寺田 秀雄
この広い海を見せたや主人ロスとふ東京のク
ラスメートに 京丹後市 山副美佐子
お火鳥さまですかと訊かれたわたくしはドリンクパ
ーに來たフェニックス 東京 石川 真琴
この薬止めましよう^{お薬止め}と医師の言う一粒なれど
前向きになる 山鹿市 吉田 敏子
「つらい日はとにかく歩く。散歩しよ」渡船
に乗って紅葉を見に 鳴門市 楠井 花乃

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生 (希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)

でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます